伊藤篤太郎稿櫻譜

坤

特 7
66

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

櫻譜

坤

明治四年四月廿日假綴

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

イチモンジ一文字

櫻品花白シ山櫻ニテ大輪ナリ單ニメリモ抱ヘモナシ花瓣平ナリ故ニ一文字ト云フ

錦窠抱外回覆

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

イセサクラ 伊勢櫻

[櫻譜] 重辨ニして濃紫色ニ赤キ花辨の中の元白キ
觀譜ニ色紅ニして甚だ開ク花も亦そべ〳〵花の尾張ニ近き
義ニて伊勢と名く 又曰右の說誤り也此花開くこと尾張ニ早く
彼岸櫻ニ次く 咲ク 或人云伊勢と云へるハおかきの義ニより宇治頼政のうたしもやしき
伊勢武者を皆緋おどしの鎧きて

宇治のあしろ引ける心

この縁なりといへりこれ又附會の說ニ
伊勢寺ハ往古伊勢ノ櫛ニて庭ニ植しより
風土記 伊勢

見る人もなき山里のをくらなん
よそのちりぢり後まちの

[三草木志] イセサクラ一名本紅サクラ 山ザト櫻 遲櫻
千葉寸半 初深紅後淡紅ニなる外辨廣肉細小ニして
イセザクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

摂州伊勢寺より出　又諸の櫻の尾張を近きころ咲故に名く

八重ニ赤を帯そこ白過ハ早咲ありて

一種遅く開くもの尾そりを近しとそ心こ

○六々撰種類云伊勢撰大輪のふるまるく八重の淡紅なる赤蕊なり昔伊勢御か住給ふ所の霊樹なるを摂津國小宮部衆王山伊勢寺ふ現存ス

伊勢国松山の城下の北ニ山斜と云所あり此所ふ十六日櫻とそ毎年正月十六日ニハ此櫻満開ふ見ふるふあり松山ふ花見とそ貴賤群集ふ寒気雪消を封ふ頃ニ此櫻ふ先色香めでたく咲出わ遠近の人共ふてやしてふ殊ニ其名高ク過頃光太守ふ和歌ふ詠給ふ京都の冷泉家ふ此花を贈り給ひてふ其時冷泉殿ふ詠返歌の侍数ふ

十六日櫻と云花を頃しも睦月半のふるこれ

雪ニ都ニ来りつゝさて色心うるそく鶯くをうの初花櫻の

花ゆへん賞玩の辞

きるそる　雪とそれそ　むつ月半り

さくとふ　和花櫻　柳の糸の

それもまも　色ふるふ　若ふ倣ふ

ほころふば　蕊よりあふれの　心有人の

ふせそや　折こせそこそ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

又歌

初春の初音を待つうぐひすの梅のそまりをそ尋ぬる

抔此外も都鄙の詩人騒人謌人をも呼て賞翫なす事ハ彼国と均しく二月の頃ともなれハ花の咲おくれそとさそひ誘ふ為めとて彼国の人に此梅の由来を尋ぬるに昔々山越の里に老人有々ける年殊に老て其上重き病ひに臥ける一人の孫ありて祖父の病ひを歎き祖父に申けるハ我ハ祖父の為に何をもつくしたるなけれハ今一度祖父の為に花を咲せ給ハんと欲の心をつくして天地を祈りける其孝心鬼神も感じ給ひけん一夜の間に花咲乱れ二月の頃の如くなりける此祈り多日正月十五日より咲るもの也と云伝へたり其由来も又正一位稲荷大明神の霊応なるとそ一所ニ子安の観音と

十二日梅

伊与国松山の城下の北の方に高き寺あり其内に古今共に其名高く歌人詠人も多く都近くなき故に古今共に其名高く歌人詠人も多く都近くなき故に古今共に其名高く歌人詠人も多く都近くなき故

イヌザクラ　犬櫻

恰頗齋櫻品云木まよ常の櫻に似て小花簇生一穂をなす
花に觀るを足らず即一名奈良天或は上溝とも小但南殿の櫻の中
畧多くと見據るつゞ別也此犬櫻の實六月に熟す其色黄
うして味い杏仁に似たり好事のもの鹽漬として酒を茗る料とす
詩に山中に多し

ふかみ色彩眼肉の木又は椒樹なと葉もとも互生
互國とも恰もまるれそ珠多くふさ伊年伊勢の
どの櫻をふまの葉とし

詩に珠玉花

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66

ガラス使用

ロウマサクラ　樓閣撰

（錦抵）

一名 花小江戸ト粗似テ重辨ヨリ色美ニシテツヤアリ小江戸ヨリ莖ト短ク花桐谷ノ花形ニシテ桐谷ヨリ小輪アリ但桐谷ヨリ八重一重交リサク樓閣ヲ皆八重ニシテ桐谷ノ変化ナリ江戸ト同ク樓閣ヲ皆元仙洞御所ヨリ出タルトゾ則後水尾院ノ勅ニテ仙院ノ樓下ノ閣ヲ桐谷ノ實ヲ植更サシメ給ヒ故ニ樓閣ト号ク今聖護院青蓮院及ビ堂上方ノ御庭ニ多ク其種ヲ植移シテ士庶ノ家ニモハビコリテ今所々ニアリ又後水尾院御庭ニ其株樓閣ノ實植アリ之ヲ目撃セル輩ニテ花形ハ海棠ニ似タリ是レ樓閣ノ変ナリ別種ニアラズ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ハナサクラ

櫻花を打くゝしていふ花橘花蓮花薄ちとの類ありといへとも花櫻の題まて花櫻とよ五葉に菅家万葉にこゝれて匂ふをれ櫻うるわと見ゆ源氏ゟ八重さくら花櫻一種ありと見えて六帖花さくら類をカニハ櫻の下櫻の上ゟ載たりうは伊勢物語ゟも花さくらのいとおそ〳〵ろき花ひらけてとそ歌あり詞花集ゟ紅のうを花さくらとよ名ゟも豊あるべし〳〵〇衣のうら色よいふを藻塩草ゟうを花さくらをおもて白うら紅とそえたり　和訓中編巻二十

はふさくら

近江御息所歌合

それさくらちる山川ハ春もおろかともまちのかたの一望うとそ見る

草木を題ゟそかゝる櫻犬櫻の花ゟは櫻ちとを別ちたれど花櫻ハ一種の如く見ゆ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号　特7-66

ガラス使用

ハタザクラ

護摩の義常州久慈郡小野平村普攝寺にあり花大きくて
志べ護の如くおひけりとそ土俗源頼義頼家の故事を傳へ
り

和訓栞巻ノ十九

瑞龍樹まあり花葉の裏ふかき針あり此普攝寺ふ堀川天皇の御宇源義家奥賊を討ん凱旋の時此地に至りて士卒を休息せ義家護摩樹を以て旌竿とし旌を掌るもの護を地にたつ歸る時其竿を忘る竿地より入りて萠芽を生ず明年花を開く後人名けて旌櫻と云ふ

常陸國記録名不知 寫本

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ハツケイザクラダイ

[古今要覧] 八景臺一莖五六葉ヲ莖ノ左ヲ長くたれて花客甚たゝ愛すへ花ありて御庭ニあり今サシ深紅ありとそ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ニホヒザクラ　香櫻

諸花香あり櫻獨り香なし〳〵然れども薩州の花園にあるハ香韻あり見て香櫻と名地氣のしからしむる処か、農圃六書曰海棠不香而昌谷者獨馥と此類也又秋海棠も香なし〳〵觀東橋諸曰陰葉翠瑤濕薄英紅粉香とあれども香ある二非ず香と形容したるの文又舜水曰く高三五尺あるものありと云ふ未だ如此大なるを見ず

中陵漫錄・十

櫻色千辨にして色赤く香氣甚ありい輪にして花まばらにつくおり

この香氣なきもの紅櫻なりよく似たるものあり

錦　植

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ニシキザクラ

花中細辨初深紅後粉紅ふち

錦窠植

中数年開・十

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

二ハザクラ　庭櫻　未櫻

活所櫻俗云庭櫻樹小而如草花小千葉似鬱谷云櫻之一
類也莫問花時亦相同

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ホタテザクラ　帆立櫻

錦窠植

[櫻品] 芝山と同種にて六辨ありまた中に一辨帆を立てたる如くある故に号く逆手と惑い易し淺色ありまた芝山と同じて色白し但帆掛をそ別あり

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66

ガラス使用

ホカケザクラ　帆掛櫻　　薄櫻

[櫻品]　色白くサー赤みあり中輪まて八重なり内ノ添(そえ)葩(はな)二片帆を掛けたるごとくなり故ニ号く(名称と説あり)古老云此花を薄櫻といふを

昔八幡太郎義家奥州征伐の時常州久慈郡ニ簇を立置き給い一跡より一株櫻生出来たり故ニ簇櫻と呼来り今ニ其叶ニあり

とぞ

錦葉櫻

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ホウリンジ　法輪寺

嵯峨寺より出

[種品] 江戸の上品おもものおり重雑大輪之関を專江戸より遅く重厚ゝ莖長く此花の莖短きゆゑ則大江戸と云大江戸と法輪寺全く一様ゟり花師し糸へかたしとゝ云江戸ハ莖長くして咲初る時ゝ蕾紅く開放て薄赤し輪かさね厚く花雑たれ花遅しとゝ云

錦葉桜

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ホウライジ　蓬萊寺

[櫻屋]　重辨こゝを逃薄紅辨厚く大輪葉細く長し此等多州より出たる木故又宝来寺と作る

錦窠植

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ホウワウサクラ　ホウヒサクラ　錦窠種

千葉白地迴鞓紅諸顔ノ細辧當有テヨランダナデシコノ花ニ似タリ

ホウワウサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ボタンサクラ 牡丹櫻

○形ボタンの如く大りんあり淡紅邊白ー

○[京]錦[邑]牡丹桜 重辨大輪花富て實ニ牡丹と称すべきもの

なり或曰此花まゝあり昔より人の賞美せー 牡丹桜 色あり大輪八重咲さかるとゝ 又變種牡丹桜と称すものハ佐藤成裕曰薩州の村田氏芳野也ソノ所ニ別廿種あり處の名ニしたがひ其形容全く此変種牡丹桜と符を合すゝ如く花の時若狭を折て多ニ愛のゝ此村田氏も難波巳南の名花多ゝと屬ほ

ボタンザクラ

ボタンサクラ

錦窠抱

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

へ

ヘツピリザクラ

日光　野州　細尾　イヌザクラの類之　是ハ　山中の櫻葉ニ

似タリ　ウハミヅザクラと異なり

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号　特7-66

ガラス使用

バンデンサクラ 雑殿様

吉今 要覚務題 弘賢曰此花ヲ日光山ヨリ出ス木直ト
立枝ト上ヲソラシテ衆木ニコトナリ 雑廣ノ如シテ花形
正シク色深紅ニシテ普通ノ櫻ニ勝ル木ナリ雑殿ト云ハ児ノ名
ナリト云フ此種當地ニ稀ナリ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

へンシュナガサキ

古今雲邊　此花も處々に多く見通例の八重さくらとは異也花形定まらず花莖長く垂るゝを異也長崎の日見橋の邊に多く此種あり雲川求林齋の長崎夜話抄に日見橋本の大さ圍一丈一尺北より九尺ほど迄に立て大枝八方に分れ傘を開きたる樣也東西十五間南北十三間本高十間ばかり花は無賢象に似て花盛に一山の雪を見る心地すと此本は天正の頃蠻人の植たる櫻なり寺は櫻谷寺と云り本は島原領なりしが寛文の頃より領となる花の頃は長崎の男女群集りて二里の山路、神を祭る都人あり唐土人あり詩よ歌よとさゞめく茶竹の郷古きから人の洒窗花の鳥もおとろくばかり賑ひ也唐土人の詩をとりかはしたるも有り為の高林領主高力氏當領主松平氏長崎代々刺史皆花見とあり其年知歌ハ一二首忘れ侍らねハ今爰に書のせ侍る前島城主高力氏自筆の懐紙櫻谷寺にあり

へンシュナガサキ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

都そ日見の様々人とうたゝみそたん雪の埋木
又誰人の歌ぬ日見櫻をも
又なくもあらぬ花の雪の埋木
右の日見櫻今ハ枯しと云々

トキハザクラ　常盤櫻

[古今要覧] 常盤櫻此花すこし紅ゝ色にて木葉ともに常の櫻と異なり四季の花をつけり若葉多く落葉多く殊々こと花開く夜名付くと又一種八重の品あり

一云種類云々櫻に似て葉長く白子の浦觀音寺に現存す其外所々にあり稱徳帝の御製ありて此名とあらたまり寺傳に見へて不斷櫻又冬咲櫻ともいふ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

トキハサクラ　ワカキノフダンニサクラ

常ニ花アリ秋冬ニシテ若芽ヲ吹ク花ハ一重ニ葉大ニヒガンザクラノ如

水紅小木ナリ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

トノサクラ　殿撰

撰品　兒桜ト似テ中輪アルモノナリ即桜ノ一類ナルヘシ一重ノ白芝山ノ変ナリ芝山ヲ大輪ナラシ

錦宴粧

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

トラノヲ　虎の尾

[楊慎]千葉すゝて枝こゞまりて咲く毬の如く枝曲折なり花開くも最小歟一是則麗枝海棠と称すべし花を泰山府君と枝を曲折あるを花疏なり楊譜に曰く桐谷に同じ徴一赤芝枝長く総まばらなる所あり虎の尾の斑文に似たるを以て名とすと

[永享]紅虎尾と云もあり花の形虎の尾に異なるをあり紅色濃きもあり

[三草木志]大輪八重白すゝ辨端水紅を帯塩竈桜と同時に開く

[山谷]葉出ず莖長く塩竈の通りてあるようき色なり枝毎に花多くつけ虎の尾のぬくく見ゆる花小く萬重なり

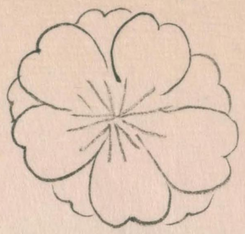
[花名集]赤き色うすくそらを下る花八多重咲

六々楊種類云虎尾桜大輪徴紅暈を帯る紅あり八重あり一重あり此種八枝の直立して花もらかりつく故さ虎の尾のごとしと名立枝振よし

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

トヤマサクラ　外山桜



錦葉　植野園祝

圖大輪八重ニ有リ但葉ハ外山ノ様ニ切レ込ミアリ又ハ一品ニ有リ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

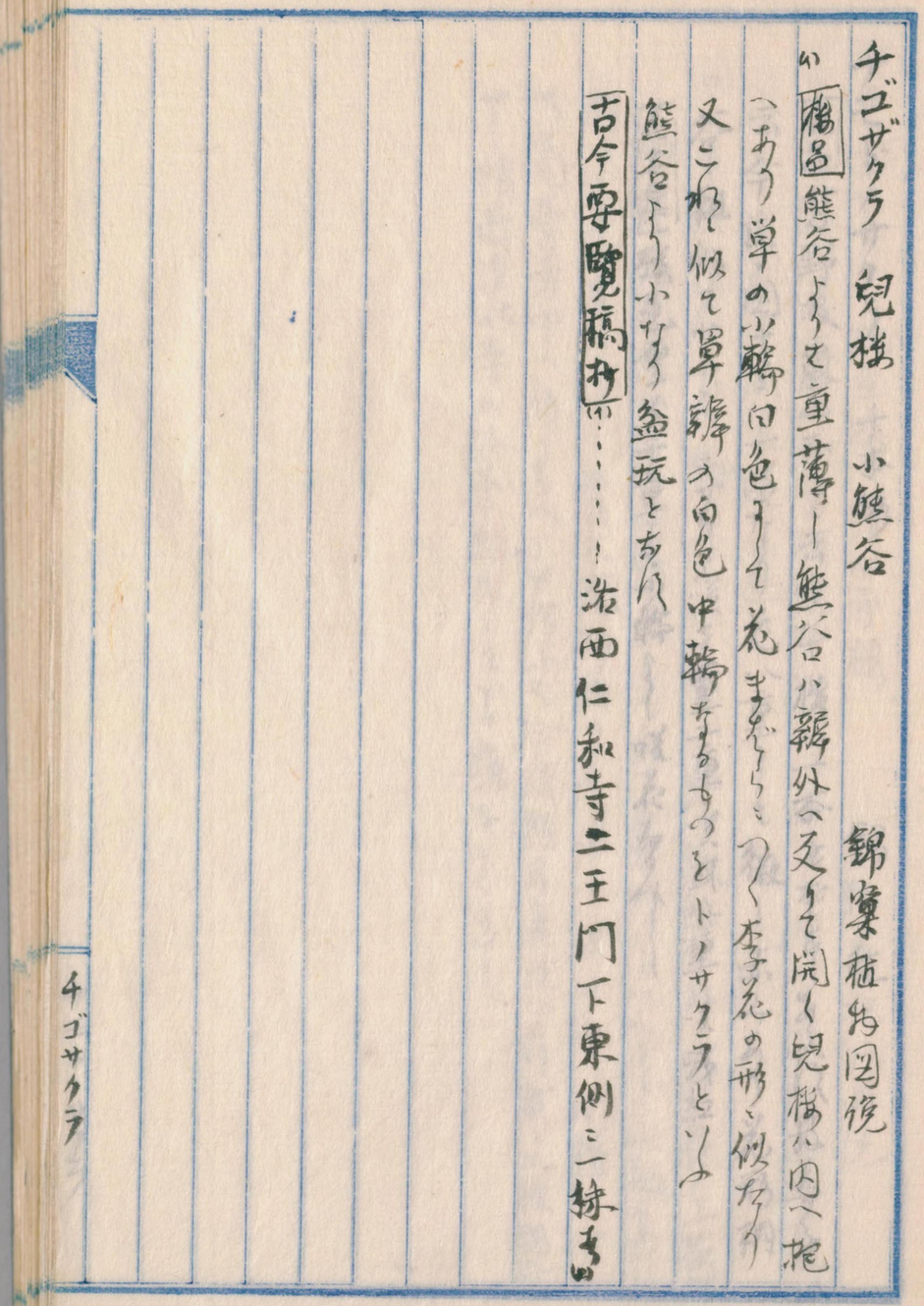
トホガハザクラ

[安永寛] 佐藤成裕曰遠川と云ふハ異品の最少き樹毎翁曾て
花の異形ハ常と談ずれども此花今深考ある事か耳底ゝ留て在
る事ゆへ諸家の稀譜にも未見ず奇花と謂ふべきもの

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

チゴザクラ　兒桜　小熊谷



錦葉植物図説

櫻園　熊谷よりて重薄し　熊谷ハ葉外へ反りて開く兒櫻ハ内へ抱
一ありり草の小葉白色まだらにつく李花の形に似たり
又この形に似て單辨の白色中輪なるもの　熊谷より小なり　盆玩とす
古今要覽稿木……　洛西仁和寺二王門下東側ニ一株あり

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

チモトノサクラ　千本桜

根岳芳野及嵐山おとこ云千本桜ハ一本を幸あづま数多を云今茲ニ図するハ一品なり花ハ重ねて花形桐谷ニ似てサハリ　キサラギ咲き重二重三重ニ咲或ハ重咲薄紅

花名集一種色愛く千重ニも八重ニも咲花多ク

錦荘

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ヂヌシユサクラ　地主櫻　清水寺櫻

一古へ山州清水寺地主權現の神苑にあるとそ古野山の二変化なりと花弁重疊白色

の天々種類云大輪單の白色うすき紅を帶微紅を帶ひ葩長く一莖二節なり洛東清水寺の地櫻をそこを元て各所にうつし植るに美なる事なりて豊太閤別莊の者を下し給ひし同種を今高臺寺中へ移しうへさせ給ふ其頃月真院の前栽に二株現存せり惜哉清水寺の本木は枯失してなし

錦裏植物園説

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

チドリザクラ

[古今要覧]千鳥桜 佐藤成裕曰郊外の亭園そこ〻〻に是ある樹毎窮の辺一里四五の間を鎌倉桜と称す寺の八木の桜八重を以て上代名木の数せ一八指て今頃一花八重多くして予花の時往て親く観る事を得たれ八強て決しうた一桜ありて鎌倉古に文珠桜指て今別也といへ八今八此花の後の遊者を待ぬ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66

ガラス使用

ワシノヲサリラ　鶯尾梅

河内國鶯尾山の寺ごもり生ず
出で向く

鶯巣梅

水紅色後白雑六

ワシノヲサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ワカキノサクラ

日本紀に雄略の宮稚櫻部あり
又白源氏須磨の巻に植しより
吹ても匂ふ若木の花の春
○若木のもとを誰をぬけよりの
○近年見の木 ゑ新 櫻あり
いつく山櫻の如く早く咲き 鳥 ゑ殖へし
玉韻府に涯南子を引て灾野之山有樹名曰若木日所出處と
ゑえたるに据也の須磨の若木の櫻とふも源氏物語に據 ゑ殖へし

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

カバザクラ　カンバ

木の上皮薄くへけて白く下皮厚く赤色大木あり葉と花も山櫻よく似たり葉不對　山櫻は葉こわく長く細鋸齒あり甘皮能く似たり

を用ゆてまき物をとぢるなり三笘野まで一名ウバ櫻と云ふ

今予一處より見出せし花を實まで見しに非ず皮を

奥州岩手縣仲氏云　山中隨所に生ず

むき市中に賣くものあり　やまとカバザクラと云　深山なるべし

北海道木材書有　櫻カバ　土人カリンバと称す　葉木周囲二尺許莫花實未詳

櫻カバザクラカンバ　是一重櫻別に樺と云木有別不詳櫻大和本艸

雜木數に載せ字彙曰樺木名寫可貼弓則別一種木平

俗名抄にも如別種然に樺史外可謂樺者未見之

□桐谷に似て重弁なり　黐許金色なりて年よふれあく黄ザクラ

又云樺茶色なり俗說て淺黄櫻と混ず淺黄ハ葉ありて

○花一重の白色なり此木の皮樺細工多く用ゆ或て笛なども

カバザクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

クラとハそもそも"色ある樺を"なり
恰頗齊校曰かくの木と云そ皮を
ず詳審此畑を考書を考へて古書
り唐土より来る半弓ハ樺巻の弓有
疱瘡物を癒る事妙也樺皮散とい
○俗名沙樺を訓し今樺皮と有
とよべり人皆樺物師の造る樺
また桜皮をカニハと訓しかみそ
帳をかく竹の筒ふまきてふかそ
かみそとよべる職人斉名
ありふそれをよめさそ
○仁カハサクラとよハ花のみを集
の一名とし樹ハ似て花ハ似ず
源氏ホ木の一ともかぞ樺の
よふよハ別種歟

カバサクラ

をなくあり
三草木志皮赤花葉のめく上皮薄
く赤黄なり曲物を綴ぢる花ふさ
○微書記云武曰ヒトへザクラの薄紅あるを云古今集カニハ
サクラとハ
○クラマ山霊現サクラとも藻塩草ニウズハかざり鞍の具之
ウズサクラとハ詠るし鞍馬山にそへたるとと云へり別にウズサクラ
そあるとハ非ず
享保覚書秩父にかそくらく三種あり空穂物語源氏物語等
みそなハ赤紫色の花なり又一種樺巻色の花をもふ又一種の笛
よりく樺樺をとる
倭名類聚抄木皮樺玉篇云樺(戸化胡花二反和名加波又云加仁
波今按皮有之)木皮名可以為矩者也(賢弘曰これよりれハ西
土の用る所へたく木皮の名也然るを皇國をサクラの類の皮を
用るに宜しきあれを樺皮と注しなれをカニハとよそカニサ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

カニハサクラ（錦窠植物図攷）出古今鈔單稱賀蘭婆又曰加波源氏物語作カハサクラ今鈔為樺債紀姓有一井式年更有一皮万葉皮讀曰カニハ者即是　新六帖詠カハ在堰川者以落花謂トチメ比則本皮屬来其畧又載纏苗管職人歌合稱之サクラカハ皆水皮之用耳顯昭注古今引鈔為糸桜即波二加也宣長主張其說相混二物遂到以加波為皮名以波二加為不名不深考耳蓋糸桜毎木亟供用且於二木形狀大異宇著從其說則亟得辨カハサクラ或曰以其花微黄俗又稱キサクラ草根漬味單辨淡紅者別樺乎夫木有シロカハサクラ指花正白者藤榮雅曰服飾稱樺桜者同本皮紅紫深丹載可仁波名久良難為桜桃可学蓋行

又

名物攷古小識一

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

カイダウザクラ

塩ガマサクラの一重あり
園花桐谷に同じ色ほんのりとそ海棠の花に似たり又櫻海棠とも名づくるにあらず

錦窠雑

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66
ガラス使用

カサニサクラ　ヨヒサクラ

前水江後ニ向ニ有　錦窠枝
本細枝因よれもつれさく

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

カタミサクラ

花のころもエボシサクラの如くして淡紅

錦窠楣

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

カンサクラ　香粉櫻

薄色のうつりあひ

中輪單ふ五出白蕊あり蕚黄色並此間ごとに小苞二三出

二重の如し〳〵白き處ふち紅の移り色あり香気あり老木に紫紅

二三重に開くをあり花の時ふち開く

錦窠植

香粉櫻

カンサクラ

白花緑萼立春の頃咲く

錦窠抄名図説

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

カンヒザクラ　寒緋桜　冬元日桜

古今要覧稿物　花短く花色紫紅まさり下を向てさく培養

ともすれバ十月より寒中までさく

六日桜種類元日桜少劣る

盛り年冬より芽を生ずる花

開花まで花形小緋桃まさり葩多く開く

あり是ハ葩多く開かざるより名ありと雖ども葉ハ紅ありて葉小樹い尋

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

カスガノ　春日野

古今要覧　春日野と称するは元彼地の種なるべし決せず
今花戸にて稀に有り白色中輪の八重にて若葉緑色なり
所により関東に遅速有りと云へども此花至て遅く咲く也

カスガノ
ミヤノサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ヨシノザクラ

古今要覧稿 芳野桜も芳野山より採来りしゆえ別に名付しにはあらざるべし 其性一即山桜なり 白色五瓣遠く望めばその咲さま雪の如し 芳野の山にのみ多くありて他所にはまれなり 山中に行ては雪山桜とも称す

○吉野桜は三月首より七十日ほどの間咲つづくものなり

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ヨリザクラ 甲州川口、イヌザクラ、ホリザクラ 野州佃尾、アマナゴザクラ

根を以て群内の糸のとび色を深む

錦窠抱

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ヨノユキザクラ　夜の雪桜

実ノ雫兒　佐藤成裕曰此花大陽と云て鎮西に多く此種あり長崎の獨笠曰此地の桜の馬場に昔此種を殖るとぞ大陽の正大幡の馬場に在も多くこれありて薩州の桜冊あり又至此地を翻せ紙上に壁して短尺とせり一樓の うへを寫せりよく見て全く此花なりと範亭 歯を横て環せり

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

タイサンフクン　泰山府君

[梅園] 全く虎の尾と同一但枝曲折あって枝と相つらなりて未に至りまばらに花つく一枝の間新條ところどころ尾一種ありて別る

○千葉にして赤く大輪にして紅梅の如し一葉に稀にあり

○泰山府君も源平盛衰記に白櫻町中納言此花のさかり数日なきを悲み泰山府君を祭りて三七の齢をのべたりとぞ

千早振現人神のくだります社の花さかりの短きをなげきまして櫻の[三草木志] 櫻町中納言成範卿この花を為よ泰山府君の祭を行ひ給ふ此名あり三月下旬諸櫻の後れて開く千葉水紅色大さ徑り寸余内弁細く多くあり後白花となる花の時葉あり散ると早し一本さかりて四五日の間え

○一種青葉サクラ

花の形泰山府と一樣にして同時に咲花やゝ小さく徑寸ばかり重葉

紅香彼

錦巣拾物図説

タイサンフクン

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

タツナミサクラ、スリキヌサクラ、タカサゴサクラ、マイシベサクラ

時期後さく萬葉紅白徑寸余心ふるもの白蕊四五出あり葉

錦窠抄

○常の八重より遅く軸四五寸いとへたれて白色すて至て大く

上品ものの女ちり

○洛陽種ゟ泰山府君千葉ゟ命徽赤葉短軸大房秋紅梅葉

稀普階莫數泰山府君等ゟ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66　　ガラス使用

タニゴエザクラ

古今要覧稿曰 谷越桜八重と一重咲ありて花の色も
紅と白の二色ありて葉ともに尾張殿御庭の邸内にあり
桐谷も八重一重ともにありて花の形少しく異なり
なり谷越八重咲さくらは葉大きく付て香あり
う歟ケ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ダイゴサクラ

古今要覧稿 磯部模と云楊貴妃の類なり 一葉綾微紅

御薬園蔵書

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ソトガハマ

モミヂサクラヨ此もれ花少しおちよ

錦窠趙雨田筆

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ツメベニ 爪紅

一種の小輪重弁なる雑種にて花弁の先端紅色を帯びたるを以て名つく

錦章抱

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ナデンノサクラ

南殿桜又源氏ニも事数の桜のうちとあり玉葉集ニとりえなり南殿ニ紫宸殿の異の名ニあり大内草創の時の桜あるよし又人皆ハ単ニ一説ニも桜なりしを兼和年中ニ桜ニ改めさせらるゝハ仁明帝の時ニうゑかへらるゝ芳野の桜を移させ給ふ○天徳焼亡の時ニ重明親王の第より紫宸殿ニ奉移ふ○俗ニ右近の桜右近の橘とゝもニ禁秘抄ニ康保二年仰ニ左右近府一夜ニ移すとゝへたるを考ふるニ續千載集ニ南殿の桜を本府より殖侍る時大内の花のさまを伝ふれを左近大将考教

古へ○雲井うゑそめたるものゝ又書てあるハ何そやらん○奥州名ハ伊豆さくらとかくいへるハ其南殿の名を負しより也

右近橘と如貴抄ニ猴橘ハ左近橘也ともいひ又右橘ハ大輪ニテ單ニ雑ト八重ト混リ咲之橘ニ侍るよし

山本正夫

ナデン

錦窠抱月図説 和刻

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

追テ近来度々　四裏表上ニ而古梅ヲ愛玩候、延故梅詳細相
分リ候ニ付申上ル

○薄紫八重花時葉ナシ　三月節頃咲
一種奥州ナデシ　チヤボサクラ、小木ニて開く花ビサ
○古人ニ要賢桜南殿櫻或ハ南天と書ニ又奈天と書ニその名作ナリ
故を知ラズ　年数長キ木ニ濃紅一種の花多ク紅葉奈天、
花瓣ニ小粒葉濃紅甚艶麗ニて一種の花多ク紅葉奈天、
色奈天ハ紅奈天葉奈天奥州奈天大奈天平敷種多ク葉の
色も亦彩々多シ

錦章花

ナデシコサクラ
一樹ニ大テウチンニ似て蕊長ニ重厚ニへた薄紅蕊短く花も
ニこのごとく如ク故ニ名づく花八重ク

ナデシコサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ナシマサクラ

一種 萬疎紅中輪 普賢象の萬重なるより此名あり未詳

錦窠栴物

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ナガサキザクラ

古今要覧 長崎接待役々有八重一重ともに花形さかさまにして花あり佐藤成裕曰長崎より楼樹甚多く梯航の地故に美花奇しとせず暢夔の如き種を得て植多く此種也予も花時崎陽に在て南野三柱と處々逍遥して見る今の清人も往々寺院に在て其園中の花を見そなはらん大抵を折て皷る市家も多く然ることを好まず如何となれば植て花盛る間まで賞玩すれば山人見る時に主人に言はず入て其本より折り取て持行とき此花の能開て美麗なるをもとより此地に在て禮なきに非ず主人彩雲の毋誰一朝に亡す豈惜まざらんや此種に皆新池津に称す三柱四葩波津に何ぞ不言の義あらんや人何ぞ不言なるや折ることなかれ花を惜まざるよりも一株を植ん事なるよりも無益の戯言なり

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ナラサクラ

錦窠種

桜品　八重桜あり花小輪まて甚やさ〳〵色赤く葉長く細く伊勢の大輔ヶ歌よりて名とる

鉢永日清輔袋草子に上東門院中宮と申せし時伊勢大輔初て奉る八重桜を或人遅く伺ひ御硯と前に置給ふ時に人々困を付てこのかを見あてよと硯引きそえて書給ふ御堂殿をはじめ奉りいろ〳〵の名ある桜ども折尽して八重桜一木あり天下の名花とそ各當意即妙なる歌共多かる中に大輔ぬし

又同しき時南都南圓堂の前にて大なる八重桜一本あり天下の名花なりとて興福寺別當并衆徒等これを惜事限りなし女院聞召家後の心ちよくて優やらんとぞ思ひ給ふらんとて使を立られ給ひ付申せられ侍りき

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

蘭香桜　錦窠植

重葉内辨皆細花大小辨交リ細辨ハ落ル大辨ハ落紫紅葉白赤

三草木志　ナラサクラ　コノヘサクラ

南都ニ多ク処の古の奈良桜と称するあそハ重のいさき山桜多シ世ニ近来ナラザクラと呼ふものそ大花一寸二三分もあり三重四重よ重もあるを内一重を浄土桜の如く或ハ細弁白藍萼ニ咲く

一名水紅色後白ー

○源平盛衰記云奈良の都ハ八重桜　大和志云八重桜　八重漢語千葉在興福寺東圓堂前樹　與堂今亡新古今和歌集云建久云年東大寺供養日行幸乃時興福寺農人重献盛也今留責見立被爾結比侍留故郷止思比奈果曽花桜加々流御幸爾逢仕也鳥

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ウコンノサクラ

半開ノ如ク新淡紅後白

錦葉植名図説

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ウズサクラ

あらし又は 鞍と云縁そウズの名あり一説にラソサクラノ転
あるとも
鞍馬の雲珠櫛とそ藻塩草に雲珠の飾り鞍の具あり雲珠
櫛とよめるも鞍馬の山に添たるあるとよめり別にウスサクラとて
あるそあらし

○藻鹽草云鞍馬雲珠櫛

雲珠櫛定めしそらも山そそまあらし
えの緑行くへいとものつくさけりを

良邇法師

ウズザクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

ウバヒガン

一種品 葉なくして花開く色薄し花はまばらなり

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ウバサクラ

錦窠翁名図説

拾穎齋 彼岸桜と一般く但葉なきを以て名つく葉と華和訓通ず

活所翁譜 莖短花密くつく葉なく老たる婆の歯なきが如き故を以て名つくるもの花ヒガンザクラより後れて咲く鈍永日 花開くも相各ゝ遅し一能桜江戸桜と同時に咲く但彼岸桜の條に述ゝたるウバヒガンと此婆桜は別物なり

三草木譜 大小あり大なるは丈余単弁九十年深紅

○ヒガンザクラの類ニヒガンザクラの次に開く花の時を考ふ八重ありて大ニ洛西御室ニ一本あり

ウバザクラ

ウスゞミサクラ

錦葉植物図説

雑品 白サクラに似て花小く單葉にて薄細く色白く蕊を少共に青く落墨の如し

又伊勢国和気郡伊墓西市寺の庭に一株あるよし一国の人も尚ほ仕ふるに花單にて落墨色なりいと淡く花弁大輪まで花さき実ありと云これ同名別種なり

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ウリニインサクラ

乱れさき相谷桜に似たり雑細枝く花中小輯三月下旬に開く

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ノコリサクラ、卯月サクラ、ナツサクラ、トヘサクラ

深山、キワミ三月下旬ヨリサキ四月ニ至ル

陽当リ深山ヨリ次第ニ

ヒラケユキ

ナカヘ机ヲナス

ヤウナリ

早ク千年細長白ヲヽウツリテ一葉両ノ花ヲヽク

ノコリサクラ

錦栄舎印図記

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ノザクラ

野桜 伊豆七嶋ニ産する野桜の一変生
なり、長早くして葉木に適用
なす、慶応記せず、此度試験の為農商務省へ買入もとめ
明治十五年二月七日
東京にて記す

鉢栽植物園院

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

オモノザクラ　大膳櫻

錦葉花弁図絵

鳳来寺ヨリ少シ色ノ赤キ一葉長ク花辨先細ク十辨ナリ花山吹ノ花形ニ似タリ此名アリ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

オホエドザクラ

錦窠梅処図巻

[模写] 花法輪の葉の短きものを元色へ桜色と云ふもの春の時に色紅ノ
完けん中ノ頃く葉青ク

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

オソザクラ　遅桜

種園　花桐谷の八重ものゝ色少し赤く實際の差別さまざま諸花の後に開くものなり葉四月新梢ありてよく合青茎の遅桜なり

銘菓植物図説

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66

ガラス使用

オホハナサクラ　大花櫻

コンワウサクラ　シラヒトヘ
勝れて大輪なり肥大なるハ二寸
に及ぶ内五辨外十余弁

錦葉類

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

クマガヘサクラ

錦窠翁の説

[雑品] 二月彼岸桜の後に咲花辨尖りあり盛上りて小菊の蕊に似てさき出し赤こありて散りがたに白くなる又熊谷と名付ること熊谷直実と平山武者所と一谷の囲けせ一傳をとりて名付又或人曰千重のもあり千葉本のニハサクラに似たりとも見熊谷ならば則是を藝苑雑大輪すて色紅暈を帯い甚山と云もの似たるを熊谷と呼ぶ是亦混入是ニサカテサクラと云もの是ニカニサクラと謂つたり花小さくして八重色サー赤をとる

[三草木譜] 白ニ邊粉紅花中細辨多く小木なり

[ ] ヒガニサクラふ先立て開く旦暁故ニ花のサキガケと云意又花小輪八重白色花のへり桃色木高サ尺許りにして花を開く長して五六尺る過ず枝多し

[大和本州] 高一尺ニ不過しも花咲く長しも四五尺ニ過ず彼岸桜クマガヘサクラ

クラマザクラ　ウズザクラ　テングザクラ　錦窠植物図説

重葉絽白辨短く廣くたて短く横長く平く心細辨ウズザクラの事古へより諸説多し砂法師ゝ藻塩草ゝ云鞍馬山の有珠櫻の事雲珠ハ飾り馬の具也雲珠とゝめるし鞍馬山に添なる心也といへりウズザクラとて別ゝザクラあるにあらずと云

クラマザクラ

先立て八重の好花開く枝の形ハ櫻に似て彼岸櫻に似ざれ枝のさまざま也別種なり花色白くして少紅を帯たり」

クルマカヘシ　キリガヤツ　コマトメ

中輪淡紅辨細長次回行く人車馬を止めて詠

錦窠抱

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ヤヘヒガン

重辞ニて色ヨき此單辞なるヲヒガンサクラトいフ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ヤマザクラ　山櫻桃　棣子　[新名]朱桃別錄　麥櫻吳普　英豆別錄

李桃

說曰此學桃俗名朱桃又名李桃
産原櫻桃一種小者名山櫻桃性味甘平而不澁煞能止瀉痢
山谷以形之不材而多食之無實耶
山に自生ある故ヤマザクラと呼ぶ市中より種へて花を賞するを諸
種より早く開く單葉にして落易し數サキをヤマザクラと云
花多く簇り開くをヨシノザクラと云花のみるとチゴザクラと云
其花後實を結ぶ形正円三久許長莖下垂また初め緑色
熟して赤色或黒色皮和方に多く用ゆ
菜類にサクラ皮と云樺皮と別あり丸き樺樣の類皮ぬ
俗理横ぢ他木皮の條理竪なるを異とす山櫻桃を大和本
草ニハザクラト訓ずるニ非ずヤマザクラハ多ク葉郁李ニ似又千
葉郁李と云又本綱逸原ニ櫻桃

ヤマザクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

一種小者を名山桜桃と云ハ非なり集解も数説あり
時珍の説に葉長尖不圓を云て
てハ桜を模桃に混まぎらハしき名花譜に説くハ桜桃の形
状ハ全く桜のごとくなるの外
詩まり
○クワザクラ本草ニハ見ニツラ同
桜品 山中に多く單辨ハ色紅
其中に品類有多く花色早く開くハ通ハ山桜ニて
又まれにみつくものあり又密
とハいふなり葉出初ハ青くして赤色を変ずるもの
又吉野にハ葉ハ初ハ青くして赤色を変ずるもの
持重ハ山桜ハ花疎ハ
夫木集
山桜まだき咲にけり如何人
活所曰一章ハ白く花疎密の二種あり莫定

もの大輪ハ桐谷ハ欽ハ又カバザクラと名ク
三草木志 病治山ザクラ花陰手細末服之一朱の服ハ奥毒無双の
妙薬なり 木癰瘡疥諸瘡の内薬ニかへて膿を消し膿を去
り痒と止む
或人六人香合ハ酒殺ハミカケを食ハて六人皆腹痛瀉下ハて
周身ニ赤斑を発ハ其時三人桜花末菜を服ハ再昏香服
ハ其菜を不用三人ハ久くして肉一人を死ハ亦一人ハミカケの
吸物を食ハて吐瀉腹痛ハ後一身痒ハを不忍掻ハ小瘡を
発ハ時ニ及ハて人ハ生イクシを噛ハ者ハ
食ハ腹痛強く死ハんとハ時ハ麦葉を用ハ者ハ吐ハ
治ハ雪塩湯ハ一服を用ハ者ハ
花名集 一名をヨシノとハ
花白ハ色ハ少輪ハ葉ハ赤ハ花多ハ
古今要覧稿ハ山桜ハ山中ハ自然ハ生ハ物ハ
白ハひとへハ多ハ新古今ニ詠ハ山の八重桜ハ
ヤマザクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

ヤマカバ

野州細尾の方言　葉櫻に似て末廣く毛茸あり花ふさをなす白き實の形ヤマザクラの如し

わをはなとわきてふく折々に京極卿関白左政大臣忠雪のたまひく山の八重さくらをおりてみせよとありしかばさくらを折り○圓珠雑記抄まさる櫻花ありしかば山櫻に八重櫻ありしかばいにしへ八重櫻有といふ証なりとうつし遣余かうういふ八重櫻を折て人のつかはされたりしに京極殿の頌に雪山花とかゝるはよき折をえたるものなりあまたの頌八絲抄を用ゐるべく雲の八重たつ山をこえてとに他の名をいはざりしなりとかゝれたりかゝる人の境界こゝろ所なり梧牡丹菊藤草雪牛花の類之をかく

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ヤウキヒ

[桜色] 小江戸ニ似テ八重中輪ノ花辨ノ底ハ白ク先ハ淡紅ニシテ別ニ又單辨ノモノアリ色ハ淡紅ヲ帯ビ明櫻ヨリ濃ク又糸ザクラト云ノ如クニシテ醉色アリ見醉海棠ト倶ニ美ナルモノナリ一糸括ハキリヲ垂レ葉長シ又藪ニ花園ニ云楊貴妃ハ全ク餘櫻ト同一但餘櫻ヨリ小菊ト見ヘ蕾ノ時ハ赤ク開ケバ白紅暈アリ花辨ノ肉ノ薄キ故ニ落ルヤスシ中ニ集ル但一名ニ種アリ

活所翁桜譜曰大骨桐谷ト同シ桐谷ハ二重ニシテ楊貴妃ハ一重ニシテ楊貴妃ヨリ小ナリ色モ又ト異ナリ

三草木譜ニ葉少ク花稀ニ九分徹水紅色ナリト雖

○奈良奥福寺七堂加藍ト記錄ニアリ 楊貴妃盤 南大門前ノ坂上ニ名木純桜有リ是普賢象ト混人往々ニ植ルヨリ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ヤヘガキサクラ

○重葉水紅色後白ミあり肉糸相ヽ

○古今集 八重垣桜 神田明神社前にあり又在々あり八重ヽ
ヽて花形らく蕚の時ハすこし粉紅を帯これ恰顔齊の桜色
の駒繋桜の一種なり

錦

花名集 極白くうるそしまよ芭あり葉ハ
輪ぐりて深裂下る見事なる花ハ
つ南都八重桜云大仏殿提谷の上北の方壇の上西の方に掬翠坊ある
あり此中来ハ神の興福寺禅ヽ云宗旨と云傍ありしく坊の庭前の桜
色世ヽ秀て花の勢ヽ一涯大なりけれハ云宗旨外愛せられし桜
れハ世俗称賞処桜と呉り

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

ヤシホサクラ八塩模　コヲチサクラ小町模

白地に辺ゝり紋征のさらさなり其艶麗多り可愛重作下り花莖

長一

ヤシホサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ヤヘサクラ

奈良奥福寺七堂伽藍之記録中に（秋之時覚之由）八重櫻
観世之前東圓堂ニ桜と云有是ハ昔東圓堂桜と名木有此程世
間ニ絶候由ニ有之候又菩提明王院の内ニ名木と云説ニ有
いつれの説時ニよりなし此八重桜ハ奈良の都の八重桜残人の取さセ給ひ帝（一條院）ニ花
を賜ニ献と云ニ而ハ無之候
此八重桜ハ奈良の都の八重桜今ニ人口ニ残る古歌ニ
名歌多候へ共今ニ人口ニ残る古歌と書出ス又神春日の神ま中臣祐重（ナカトミノスケシゲ）とかや
このニ有名ニ候と書出ス又神春日の神ま中臣祐重（ナカトミノスケシゲ）とかや
此桜を續苗ニて庭ニ植置候ハ、彼桜なり上けらるゝ
しかハ葉中ニ開ニ百葉ニ有之候ハ、彼桜ニ紛ニ候ハ、彼桜ニ紛ニ候ハ、彼桜ニ紛ニ

ヤマカハサクラ　山川桜　一名三島田

古今要覧　山川桜　佐藤成裕曰此花名付て三嶋田と云薩州の南屋久の三島田の産にあり花大にして葉小く匂あり葉大に毎夏もえ出て大なり此大樹水中より流て百年を経て水より出て枯樵となるも其心のとゞまる沈香の香烈香と類す尤彼地方香木の生ずる數屋久島乃國訛と屋久の三島田の深山の桜枝かわりて又花かわりて又花かわりて又松女かいつもさく是南島の芳野也又次に出る変種山川と称して大葉にして長くなりて色濃といふ地錦抄に桜に蔓くり莖長く下り咲とあり

押るへき草やあると又奈良朝より多く詩歌に
うたはれ
○吉野櫻　佐藤成裕曰此花往々見る事あり予が壮年の時ハ施
鳥山の産のもこれあり称して江戸彼岸桜と
立春より七十日頃より盛りとなり享保年中と称さるゝと人に當
時此數の、重七輪子多く此地高山にして櫻
地、あるにその頃の上花ハ絶なるべし
まるべし　汁土　かるべし　山の
あるべしすべてもかいなきまゝなるべし
然らずして雲もかゝり雪もまがふ
を心得ざるを植るに便すべし　又變種八重櫻と称するハ二重ね
あるべく色の濃き異なるべし

マメザクラ　一名　ミツザクラ　メジロザクラ　正月サクラ　錦望蕊

ヤマザクラの美なるもの葉稀薄多くして深く開くとがり頭なく花数甚だ多くして深山多し　色白く桜色中なり

（信州伊奈保）メジロザクラ、木曽野尻）ウハミツザクラ、カミマメ（木曽贄川）

ワメザクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号　特7-66

ガラス使用

マザクラ真桜

一八重もゝ花霞細し虎の尾と似たり京都の仲夏橋と同時頃

錦葉狐

マサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

マヤザクラ

六七雑　山ザクラに似て淡紅

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

眞木楼

法所楼譜云眞楼在摂州金龍寺形色勝於諸楼
怡顔斎楼墨云眞楼重辨ま花瓣細く虎尾ニ似り京地ハ伊勢
楼と同時ニひらくあり

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

不斷櫻　若木櫻　節會櫻　右十六日櫻

飛鳥　梅　節会櫻　一名十六日櫻　伊勢國松山にあり正月中旬
心を開くこと一重の小花なり近来枯たりとて又絶て種ず
そのさま梅のごとく又繁茂して藝州廣島にもあり此名を其近き
不斷櫻と名く皆一物之其花形彼岸桜に似て花開くこと四時不斷故に古人斷櫻
むらがり生ず上元前后に必ず花開く故に上元櫻と呼ぶ梅に異ならず
鳳仙花と名を同じくして異物なり熊谷櫻は此種類なり歐陽云
梅有り四季に花をつく不斷梅と名付
フダンザクラ

雪裏花　閑人未識　楊妃春睡共驚　疑是梅妻鶴伴　便須畫入寒窗
酔初見　今年再一枝
加但謂桃花種　早開者耳　及遊成都始識所謂小桃云
者上元後即著花狀如盃　綠海棠曾子固雜識云正月中
開天章閣寶元小桃正謂此也　出伊勢
白子觀音寺の庭に梅あり四季に花をつく不斷梅と名付
フダンザクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

彼地の人と詩問答し明石及廣島の
鉢録陵游老学庵筆記に載る所正
しく小桃と出たりまた桜学
のかゝる又一種花同じく三度桜
度開くこれ不断桜の類なり

○鈍永曰葉花園云若木不断櫻と云ものあり須磨若木の
桜の皇櫻なるべし春もり秋まで花開き久く花
夏五六月比に若芽出て稍と花さく三葉葵に似て小高さ
四五尺思ふに花つくとなく又八重も四季も花開くに一様
の内に落葉あり落花あり若葉もり駿州の玉
人に此類ありまた右節會櫻一名十六日櫻ともいふ
和泉郡小栗村周国和光君竜音寺の山陵にあり
[三代実録]フダンサクラ箱根山及富士山に多し伊勢白

子観音寺に大木もり四時咲是又山桜の類
○椙木桜まれに有名もり駒込片町の花屋中次郎といふ老人に
本もり八十の高齢もて諸木の培養に妙を得一生もっぱ
元年和州吉野もり或人の持帰りし不断桜と五六年を隔てもって北豊
島郡王子神社の山傳多瀧の川村の畑地へ植付年々数株と
分て培養せしに果して地味もよく一生木蓮もて本年の春又花
も美事に咲き葉の碧に萌今は晩秋の如き季候多く楠の花満開
もて殊に春の様なるの奇観もと付記今は瀧の川の紅葉と
ひとしく枝もたわゝまで又西ノ原の山
林局樹木試験場もて今度吉野種の不断桜と培養試験もて
なるかこの桜八月中旬もり翌年もの三月頃まで咲続ける
ものといふ

古林学問会雑誌 第拾壱號 (十五ノ年)

花名集 春もり秋迄咲之花一重小輪山桜もり早く春花多く夏若芽
の赤き花咲き若葉もり出もて又秋花咲春小葉有もて咲

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

冬芽小落る葉敷州日子町観音堂ある大木何方より花咲

フユザクラ　フユキノサクラ

十月に関き出嫩芽を出生春し又常の桜と同時に咲小木にも花あり　トキハサクラと一様に繁廣りて不透花も小也

錦窠植物図説

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

フゲンゾウ

始小菊の苔の如きもの其葉六人扶持ほどより葉を抜出る其下ゟ葉及び
ら八重出るうそ寄十重ゟ大輪ゟ見事咲小ぶりをいとどりとゝなふ

葉の如きもの三ツ重ゟく五重六重ゟと
右普賢象絶て今一條殿ゟ秘蔵の櫻普賢象と唱ふ候
これそれツバ子のゝ一右ツバ子ゟそふ
北野ゟ食ゟ屋の内ゟ普賢象と唱ふ候
葉一葉ゟ人ゟあるゟそれ是ゟ一條殿御秘蔵の櫻ゟ下品ゟツク
バネのゝ一千葉守整守吟一也 文政九成五月

頭書本行ゟ載ゟコチラノフゲンゾウゟ
三図ゟ前ゟ一條殿ゟ
ゟ九條殿御庭ゟあるもこれゟり
ゟゟ九條殿ゟゟ誤欤但両殿共ゟ
重ねゟゟ五重六重ゟゟゟ
江戸青山ゟフゲンゾウサクテ

フゲンザウ

錦窠植物図説

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

千辨ヲ五六輪一處ニ密ニ(ヒソカ)ニ(ツク)花甚張ラン莖長ク垂レ色赤シ
花中ノ葉終ニ一二節ヨリ茶ノ芽ノ如ク養葉五六分ノ長サノ青芽
二三箇辨ノ間ヨリ雜リテ出花形ヲ(シ)ボミカケルガ如シ 奥州仙臺ニテ
ヲ奈天(ナデン)ノ樹ト云京師ニテ奈天ト云ニ不ヌサクラノ事也
○洛外翁橋邊ヨリ塩竈ニ同シ但花中ニ二葉出是其異ナリ
花舉葉皆同音也象鼻出ノ意ヲ普賢象トモ
○甕永曰蔭花園ニ云ヘル大白千辨薄色ヲ帶ビ花中ニ二ツノ細葉出テ
象鼻ノ如シ或人云此花莖最長シテ下ヘ垂ル故普賢象トモ云ヘリ
三草本志ニ(ノセ)ゾウ 三月下旬ニ開ク遅サクラ花重葉ニテ
開クトヤヽ水紅色後ニ純白トナル雜細長花莖長ク甚シク相模國
金澤山称名寺ニアリ普賢象ト文珠櫻ノ二ツヲ金沢ノ八木ノ一
種也或説ニ普賢象ハ花中ニ二ツノ細葉有リテ象ノ鼻ノ長クタレ
下ルヲ以テ云ヘリト普賢象ニ似タリト考ルヨリ花中ノ
小折村ニアリ名木ナリ
三圀(名古屋神名書ヲ引)云京師ニ在勤ノ節千葉妙善寺

守ニ聞ケリ普賢象ハ花中ニ青蕊四ツ出ツ故ニ普賢薩埵(サッタ)四葉ノ
象ニ乗ルト云佛説アリ(ヨリ)ナリ(ヒロ)教ノ甘キハ莫ニアレバ小ニドリノ
多由行事大成ニ云阿蘆堂大念佛
千本ノ北引接寺ニテ勤之
此法會定ノ(ヨリ)但境内ノ櫻咲ノ頃閑暇ヲ十ケ日ノ間
一説ニ千本ノ念佛ニ三月中旬温室會昔行ヒシ(ヨリ)ノ意永十
五年三月八日後小松帝北山義滿公ノ佛事ヘ行幸ノ(ヨリ)ノ事ナリ
ケ時當寺普賢象ノ樹名木ノ由所ニ(ヨリ)ニ将軍家ヨリ斯波
治部大輔義重ヲ使ヲ(ヨリ)ニ花ノ盛リニ念佛ヲ執行
ヌベシト上意ヲ(ヨリ)則賴ミ奉リ莫大ノ事
當寺前ノ普賢象ノ樹奥ヲ(ヨリ)ニ寺僧二枝ヲ折テ見ヲ
京北尹ヨリ(ヨリ)ニ即米三石玉斗ヲ賜ハル見ヲ以テ七日法會ノ料
ヲ(ヨリ)ニ堂前ヲ飾リ俳優ヲ(ヨリ)ニ芸技手生會佛樂供養ノ(ヨリ)ニ
處ニ等シク芸技各假面ヲ被リ堂前舞臺ノ上ニ於テ佛優
ヲ(ヨリ)ニ千手寺ノ俳優ヲ無ヲ(ヨリ)ニ(テ)千手寺ノ俳優ヲ以テ更ニ(ヨリ)ニ(テ)

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

西人乞降軍遂解圍不亦悦乎今日有客惠櫻花者所謂普賢
堂也予與花一咲如十年之舊旺異哉不啻生登太平而得見此
花幸之又幸也感喜有餘作詩謝之
七年不見普賢堂喋亦東西難遇墻籬後逢花春似夢一枝晴
雪滿衣香

らむ富寺と言ふ発しそれ枝を分ち今十七日の間これを移
む堂前の樹と普賢象と名づくるなけ花白きこと花形大きう
中に一華豊なる形の配あるを其形美望普賢の乗ると白象の
ごとき多の如一故にかくと又云ふ鎌倉の普賢堂と此樹あるが故に普
賢堂と云ふと旧記にそこれを書に宝治二年三月廿日千年名佛と
又或曰普賢象和訓象に似る菩薩所乗白象之象也雨執是平安城之西有此櫻實名花也万年
之距此地里許而近毎至春時携客出遊何可一日無此花耶
自丁亥之亂東西鴻溝不見普賢者七八年于今矣駐歩之
間雖花如敵春風公子公孫不可得而知也今茲甲午

花名集 色有て花多く八重大輪花の中より葉一枚つゝ
○東海瓊華集云景三謝汝恵櫻花詩序曰櫻之於我國也人不
曰桜而曰花如洛之牡丹蜀之海棠蓋所欽貴之也普賢堂者
天下第一也世傳鎌倉有堂普賢安之其有様俗謂之普賢堂
又或曰普賢象和訓象に似る菩薩所乗白象之象也雨執是平安城之西有此櫻實名花也万年
之距此地里許而近毎至春時携客出遊何可一日無此花耶
自丁亥之亂東西鴻溝不見普賢者七八年于今矣駐歩之
間雖花如敵春風公子公孫不可得而知也今茲甲午

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

コテフサケニ

[illegible]吉今要覧[illegible]佐藤成裕曰桜に蝴蝶の名あるを聞くこと久しけれども未其実品を見ず愛に図するところ桜の蝴蝶とおもはるゝ者を左に掲ぐ

[illegible]す昔樹毎分[illegible]世に稀なりと言端と聞けり

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

コンロウサクラ　金王桜

一花弁重弧大輪ニシテ咲ク花落ツル時葉ヲ出ス

一苞ヲ有ス　金王桜ハ軍辞ニシテ字ヲ充ツ

大木トナルヲ以テ　佐藤成裕曰樹毋翁ガ云テ照手ト名ケ

よし原ニテハ昔ハ處ニ多クアリシト今ハ稀ナリトテ花壇全書ニ金

王桜ハ單ノ大輪ニシテトアルヲハ其頃ハ滝谷八幡宮境内ノ樹モ單ナ

リシカ　然ルニ今ノ木ハ重ノ樹ヲハフリ植ヘ

タルヲ以テ後今ノ如ク重ニナリシナラン現存ノ樹ヲ滝谷金王桜ト

称スルナリ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

コシダヒザクラ

[寄手要覧] 枝細くしてサー垂葉ハ山櫻ヲ似ていく花ハ中輪の八重ニて色鮮カ小枝垂と呼ふもの歟ナリ

(錦葉植物図説)

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

シダレコサクラ

ヒガンサクラノ類也枝細ク垂ル花ハヒガンサクラヨリオソシ粉紅ト雪白ノ二種アリ又二三重ニサクアリ

（錦窠植物図説）

コシダレサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

米コンサクラ　米櫻　錦葉種類図説

小櫻ありて葉木及葉花皆似櫻而甚小ありて木高四五尺ぞうり
花も單ありて花多く凡品物に大小ありて皆櫻のごとくなるあり此花
常の櫻と同時に開く根ぎり多く叢生せて又小米櫻あり別え

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号　特7-66
ガラス使用

コゴメザクラ

葉楔ニ似テ細歯ヲ有ス春花ヲ開ク枝頭ニ聚リ五辨白色ニシテ下ツ毛ノ花ノ如シ花後葉ヲ結ブ秋ニ至テ紅色ヲ呈ス大サ南天子ノ如シ

錦窠植物図説

熊野物産志ニ抄録

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用